

## 4月の天候の特徴

### 1 4月の気象

#### (1) 4月の気象の特徴：山火事に警戒

4月になると各地で桜が満開（松山の満開の平年日は4月5日）となり、花木や草花が色とりどりの花を咲かせます。やわらかい春の陽射しとともに暖かく穏やかな季節となります。瀬戸内地方では気温が上昇する反面、雨量が少なく、湿度も低くなるため、空気が乾燥し火災の発生し易い気象条件となることが多くなります。一方、低気圧が3～4日位の間隔で西日本を通過するようになり、低気圧が日本海を発達しながら東進すると、南よりの強風が吹きます。低気圧からのびる寒冷前線が通過する時には、風の急変や激しい雨、ひょう、時には竜巻の発生など短時間に大きな気象の変化が起こります（春のあらし）。また、移動性高気圧に覆われて晴れた朝は、放射冷却によって気温が低下し「霜」による農作物被害が発生しますので注意が必要です。

#### (2) 愛媛県における4月の気象災害

右表は、気象庁の統計による昭和20(1945)年～平成22(2010)年の愛媛県内で発生した原因別災害回数表です。4月は濃霧や強風被害、空気乾燥による山野火災などが多くなっています。この時期は特に火の取り扱いに注意が必要です。

原因	回数
濃霧	15
強風・波浪	7
乾燥(山野火災)	6
大雨	4
霜	3
ひょう	1
干害(長期による)	1
合計	37

#### ・ 4月における主な林野火災

昭和53(1978)年4月8～11日 新居浜市山沿いで山野火災800ha焼失。

昭和61(1986)年4月6～7日 新居浜市河北山等で山野火災250ha焼失。

平成1(1989)年4月11日 西条市下島山で山野火災25ha焼失。

平成1(1989)年4月16日 越智郡宮窪町で山野火災30ha焼失。

平成8(1996)年4月5～9日 西条市船屋で山野火災80ha焼失。

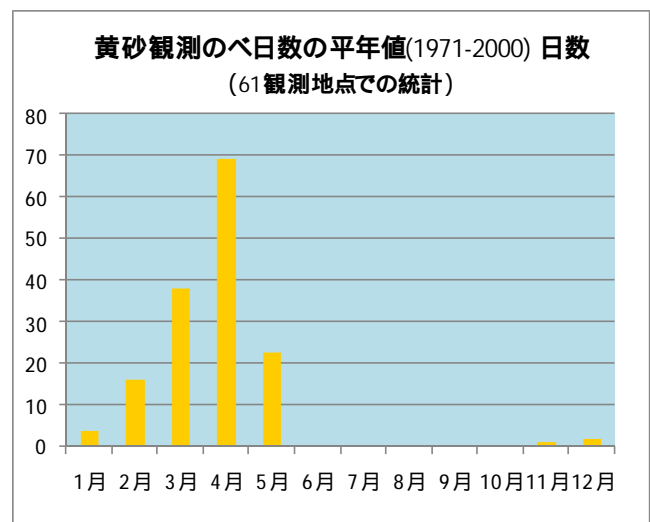
平成9(1997)年4月19日 松山市窪野町で山野火災0.015ha焼失及び周桑郡丹原町で山野火災0.1ha焼失。

#### ・ 4月の「ひょう」による農業被害

平成4(1992)年4月15日日本海の発達した低気圧からのびる寒冷前線が夕方愛媛県を通過し、宇和島では直径10mm(所によっては15mm)のひょうが降り、宇和島市や東宇和郡、北宇和郡などで葉タバコ、クワ、キウイフルーツ等に被害が発生しています。

### 2 気象用語の解説 = 「黄砂」

日本への黄砂の飛来は、約9割が2～5月の期間に集中しています(右図：1971～2000年の統計資料参照)。黄砂の発生源はゴビ砂漠、タクラマカン砂漠などの砂漠地帯や黄土地帯です。この時期、これらの地域では雪が解け露出した地面が乾燥し、まだ植物が生えていないため、黄砂の発生要因となる砂塵嵐が発生しやすいことに加え、大陸から日本へ吹く西風などの条件が重なると、黄砂の飛来が多くなります。気象庁では、黄砂の観測とともに、黄砂の飛来予測も行っています。これらの情報は、気象庁ホームページ内の「黄砂情報(実況図)」(<http://www.jma.go.jp/jp/kosa/>)や「黄砂情報(予測図)」(<http://www.jma.go.jp/jp/kosafcst/>)ページに掲載していますのでご利用下さい。



## --気象災害から身を守るために--

### 第9回 降水ナウキャストの利用

気象庁では、大雨の実況を掴むために「気象レーダーによる観測データ」と「解析雨量」を、今後数時間の大雨の動向を把握するために「降水ナウキャスト」と「降水短時間予報」を発表しています。

(それぞれの特徴は右表のとおりです。)

	雨量単位	発表間隔	予報時間
レーダー(実況値)	降水強度	5分ごと	
解析雨量(実況値)	1時間雨量	30分ごと	
降水ナウキャスト	降水強度	5分ごと	1時間先
降水短時間予報	1時間雨量	30分ごと	6時間先

#### 1. 降水の実況把握

気象レーダーは全国20か所に設置されており、1キロメートル四方単位の細かさで、5分ごとに全国の降水の強さを観測しています。

解析雨量は、気象庁の設置した気象レーダー、国土交通省の設置したレーダーと、アメダスおよび地方自治体等の雨量計の観測結果を組み合わせ、雨量分布を1キロメートル四方単位の細かさで算出したものです。解析雨量は、気象レーダーと雨量計の特長を活かした精度の高い雨量分布情報で、1時間雨量の分布を作成し、30分ごとに提供しています。

#### 2. 降水の予想

降水ナウキャストと降水短時間予報は、いずれも現在の雨雲の状況を基に目先数時間の雨量分布を予報したものです。降水ナウキャストは、最新のレーダー観測による雨雲の分布と動きを基に、1時間後の降水強度を1キロメートル四方単位の細かさで、5分ごとに提供しています。

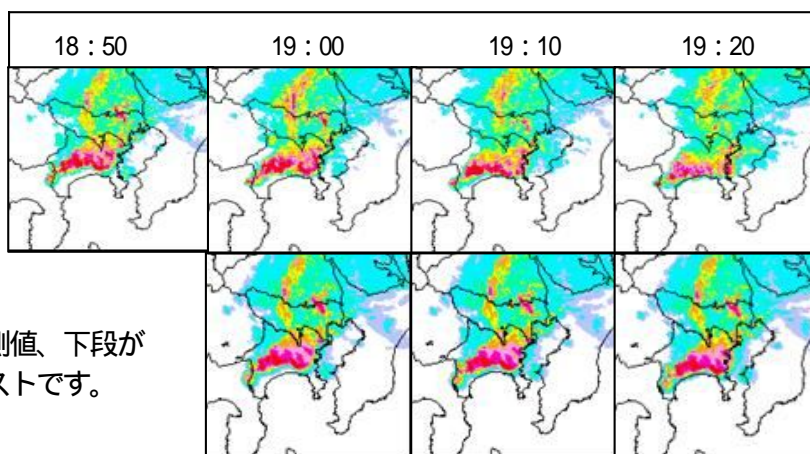
降水短時間予報は、6時間先までの各1時間雨量を1キロメートル四方単位の細かさで、30分ごとに提供しています。この情報は、解析雨量から求めた雨域の移動速度や地形による雨雲の発達・衰弱などを考慮した予測雨量や、数値予報の結果を加味して求められた予測雨量から作成されています。

#### 3. 降水ナウキャストの利用法

局地的な大雨をもたらす積乱雲は急に発生・発達するため、30分ごとに発表する解析雨量や降水短時間予報では実況把握や予報が間に合わないことがあります。このような場合には、刻々と変化する状況を抑えることができる最新の気象レーダーの実況と降水ナウキャストを利用することが効果的です。

目先の状況から今後数時間先までの降水現象は、降水短時間予報と降水ナウキャストのそれぞれの特徴を活かし、相互に補完しながらご利用ください。

右の図は上段がレーダーによる観測値、下段が18時50分初期値による降水ナウキャストです。



#### 4. 身の安全を守る対応

局地的大雨から身を守るためには、テレビやインターネット、携帯電話などで最新の気象情報を確認し、戸外での行動の際には、周辺の気象状況の変化に注意を払い、それぞれの行動に応じた対応をお願いします。